



行事予定表		
2	月	防災の日(9/1) アルファ米を食べよう
5	木	リトミック(2歳児以上) 子育てサロン 読み聞かせ(5歳児)
10	火	ピヨピヨ
12	木	カレーの日(祖父母招待)
18	水	お弁当デー/交通安全教室
19	木	子育てサロン
26	木	誕生会
27	金	避難訓練(通報訓練)

夏が終わり、さまざまな体験をして子ども達は、一回り成長したように感じます。「お暑うございます」という挨拶さえ白々しくなるような、うんざりする酷暑が続きました。それでもお盆が過ぎる頃には夕暮れと共に、ひぐらしが鳴きだし、すだく虫の音に秋の気配が忍び寄り、まだまだ残暑もあるでしょうが、いよいよ子ども達がグンと成長する実りの秋です。

美しく変化する自然の中で、いっぱい遊び、体験します。運動会・筑波登山など行事も沢山ある充実の秋です。今月も、子ども達、私達と一緒に園生活を楽しみましょう！どうぞ宜しくお願いします。



小さな命に触れる機会



卒園児がおじいちゃんとおばあちゃんにカブトムシやクワガタを保育園に持って来てくれました。4・5歳児のクラスで飼ひ、テラスにカブトムシやクワガタを出して子ども達が触れたり、眺めたり、図鑑で調べたりと興味津々の様子でした。また、虫が痛まない持ち方を知り、小さな命を身近に感じています。最近昆虫に触れることの出来ない大人も多いと聞きました。小さな命を大切にすることで、自分や他者の命も大切に感じて欲しいと思います。

今月の予定の中がら...

- アルファ米を食べよう。(2日)
- ・今年も、防災の日(9/1)にちなみ、アルファ米のおにぎりといんちん汁を食べます。離乳食の子は、備蓄品のお粥を食べます。4・5歳児はアルファ米がご飯になる所を見て、匂いを嗅いだり、おにぎりも自分で作り、一口一口大切に食べます。
- カレー昼食会を行います。(12日)
- ・4・5歳児は、エプロン・三角巾の用意を子ども達が自分で行うように見守って下さい。そして、自分で出来た事を大げさに褒めてあげましょう。(褒められると次へのやる気へと繋がるものです。)*今月は、たいようぐみ・そらぐみの祖父母の方々と一緒にカレー昼食会を計画しています。各クラスの祖父母の方で(一家庭お一人のみ)ご参加頂ける方は9/6(金)までに担任にお知らせ下さい。

- お弁当デー(18日)
- ・まだまだ暑い日が続きますので、お弁当の中身にも気をつけ、よく冷ました後に、保冷剤を入れて持たせてください。
- 誕生会(26日)
- ・今月は先生達による手品です。手品の不思議さを感じてもらえたらと思います。

●通報訓練(27日)

・今月は、消防署の方々に、園の避難訓練の様子を見て頂きます。消防自動車の見学もお願いしています。

☆お知らせ★お願い

☆5歳児の筑波登山は10月4日(金)です。子ども達と先生達で筑波山のつつじが丘駐車場から一歩一歩自分の足で登ります。詳細は、後日配布する手紙をご覧ください。

☆開園から勤務していた、にじぐみ担任の矢口尚子先生ですが、9/20で出産のため退職となりま。有難うございました。

非認知的能力を育てる

本園の教育理念は「たくましく 大地に根を張れ ふたばっ子」「子ども達の樂園」という標語に現されています。根っ子の教育・・・心も体もたくましく、優しい立派な社会人になること、その基礎をしっかりと育てることです。その為には、子ども達が主人公であり、自主的、主体的に楽しい園生活を送れるように配慮している事を前回述べました。▼幼児期に重要な事は、特に非認知的能力を育てることです。小学校以降の国語・算数などの評価可能な認知的能力に対し、評価の難しい非認知的能力は、目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、自己抑制、感情をコントロールする力など、個人的、内面的な力です。▼ノーベル経済学賞を受賞したヘックマンが「ペリープレスクール」の調査結果を発表し、世界的に注目されました。日本でも中教審で取り上げられ、幼児教育の重要性が認識されました。(しかし、政策的にはほとんど手を打っていないように感じられます・・・)。何しろ、OECD先進国の中で教育予算は最下位ですから)ヘックマンの主張は、①子どもの教育に国が予算をつぎ込むことが、経済効率が高いということです。

②幼少期に非認知的能力を身に付けると、大人になってから、社会的地位、経済的安定につながるといふことです。▼具体的調査の内容は、経済的余裕のない貧困世帯の3〜4歳児123人の半数の子どもに週3回、1日3時間のプレスクールに2年間通わせ、さらに週1回教師による家庭訪問を行いました。そして、40才の時にプレスクールに通ったグループと通わなかったグループを調査したところ、プレスクールに通ったグループは通わなかったグループに比べて、収入が多い、持ち家率、学歴が高い、生活保護受給率が低い、犯罪歴が低い、という結果が出ました。この結果は、教育を受けてIQが伸びたからではないかと考えてしまいがちですが、子どものIQは、9歳頃から殆ど差はなくなっています。(この調査は1960年から、まだ続いています)▼ヘックマンは、認知的能力を伸ばしたからではなく、非認知的能力を身につけたことが、その後の人生で大きな差が出たと考えました。①国の予算の使い方、幼児教育の投資効率は明らかです。国民の社会的、経済的安定により、将来の税収が増え、犯罪発生数が減り、生活保護受給率が減るので、社会関係等の支出が減ります。②そして、学歴も社会的、経済的地位も高まるので、一人一人が人生をしっかりと楽しめるようになりま。▼では、非認知的能力は、どうやれば高められるのか。私達はできたか否か、知っているか否か、目に見える認知的能力に目を奪われがちですが、失敗しても、諦めずに挑戦する意欲、苦しいことにも、我慢できること、自己抑制、感情をコントロールする力、人と関わる力(共感力・協調性)などの非認知的能力を幼児期に育てることが大事です。そして、それは「遊び」の中でこそ育つのです。双葉はこのことを実践しています。もっと掘り下げ、具体例を上げて、次にお話しします。

理事長 浅田 精利

